

令和3年度 八尾隣保館 事業報告

1.事業の継続性及び運営の透明性

- ・ 理事会を3回、評議員会を2回開催し、法人の運営等について審議、報告した。
- ・ 施設長会議およびマネージャー会議を計10回開催し、法人の事業運営等について協議をおこなった。
- ・ 行政・法人ホームページおよび全国社会福祉法人経営者協議会ホームページ上に令和2年度法人決算書類を公開した。また、各事業所の行事報告等を法人ホームページ・SNSより随時発信を行った。
- ・ コロナウイルス感染者が発生しデイサービス等に関しては休止等を含み対応した。
- ・ 法人の85年史「麒麟が如く」を発刊した。
- ・ 八尾市地域密着型介護老人福祉施設の公募について、応募予定であったが用地が見つからず不調に終わった。

2.人材の確保と育成

- ・ 人材の確保として各種求人サイトや人材紹介、学校訪問等を通して介護職員6名、保育教諭5名、母子支援員・少年指導員2名、看護師1名、調理員1名、その他職種3名を採用した。また、令和4年4月入職者として介護職員4名、保育教諭6名、母子支援員1名、看護師1名を採用した。
- ・ 現在ベトナム人留学生5名が、特別養護老人ホーム成法苑、第二成法苑つむぎにてアルバイトをしながら日本語学校や専門学校(介護)に通学している。また、11月に令和4年度留学生採用面接を行い2名受け入れ予定。留学生1名が専門学校卒業し、当法人に就職する。
- ・ 法人内部研修として「アンガーマネジメント」について研修を行った。その他外部研修に職員を派遣した。

3.地域公益事業

- ・ 社会貢献事業として18件の相談を受け、内7件に対し計293,507円の経済的支援を行った。
- ・ スマイルサポーター事業として2園合わせて計20件の相談を受けた。
- ・ 学習支援事業として八尾市内の中学生計12名に対し支援を行った。
- ・ 中間的就労事業として法人内事業所に3名の受け入れを行った。
- ・ 地域子育てサークル支援事業・介護者リフレッシュ旅行は中止。
- ・ 八尾市ひとり親家庭支援ネットワーク事業として、会議のみで活動は中止。
- ・ 住宅確保要配慮者居住支援事業として、59件の相談を受け対応した。

令和3年度 キリンこども園・キリン第二こども園 事業報告

1.利用者支援の充実
<ul style="list-style-type: none">・ 一時保育・休日保育事業はコロナの影響はあったが、可能な限り受け入れ、緊急時の利用や、就労による定期的な利用が多かった。・ 延長保育は、コロナの影響や保護者の働き方に変化があり 19 時以降の利用は減少した。・ 要保護児童の見守りと障がい児保育では、児童デイを利用する園児の個別支援の懇談や、地域子育てセンターみらい、また、東大阪こどもセンター等他機関との連携を図った。・ 体調不良児保育は、コロナ感染予防につながる教育、保育中の体調不良や怪我に看護師が対応する事により、保護者の安心に繋がった。また、指導、注意喚起も多かった。・ 精神不安定や発達障害のある保護者に対し、定期的に面会を実施し、信頼関係の構築に努めた。
2.人材育成と環境づくり
<ul style="list-style-type: none">・ キャリアアップ・障がい・虐待対応を中心とした研修に参加し、保育の専門性の向上に努めた。・ 昼礼やリーダー会議、人事評価会議などを通して、スタッフの連携強化に努めた。・ 実習生、学生アルバイトを積極的に受け入れ、学校へのアプローチ等含め、採用につなげた。・ 連絡帳アプリ(スマートビュー)の導入に向け、準備をすすめた。
3.地域とのつながりと共生
<ul style="list-style-type: none">・ 園庭開放、地域交流はコロナの影響で開催回数が減少し、そらいろの発展・推進ができなかった。・ 高齢者施設や中高生との交流は可能な限り実施した。
4.時代が必要とするサービスの創造
<ul style="list-style-type: none">・ 子育てに関する講習会が実施できなかった。
5.事業の継続性及び運営の透明性
<ul style="list-style-type: none">・ 休日保育・一時保育ともに、コロナの影響もあり、延べ人数目標の約55%にとどまった。(キリン)・ 一時保育の延べ人数目標の約30%にとどまった。定期利用が少なかった。(第二)

令和3年度 ルフレ八尾事業報告

1.利用者支援の充実
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍の中、LINEを活用した相談支援や食支援を通してアフターケアの充実を図った。登録者数の増加も見られ、制度等様々な情報発信を実施した。また、積極的に退居者へ電話連絡を行い、近況報告を聞いたり情報提供にも努めた。・ 心理的な支援を必要とする利用者に対し専門家による心理相談、プレイセラピーを実施した。また、心理士が学習室にて、子どもと遊びを通して関わることで、より子どものことを理解しカウンセリングの質を高めるよう努めた。・ 自己評価を実施し、提供する福祉サービスの課題および新たな取り組みを模索しながら支援の資質向上に繋がるよう努めた。
2.人材育成と環境づくり
<ul style="list-style-type: none">・ 東京・福岡との合同勉強会に参加することで、国や地方公共団体の考え方や施設としての今後の在り方や目指すべき姿についての学びを深めた。また、次年度から実施する産後ケア等の事業や支援を円滑に進めていけるよう、職員に対して情報の周知に努めた。・ 専門家を招いての勉強会および外部研修(web 研修)にも積極的に参加し、支援スキルの向上やメンタルヘルスについての学びを深めた。また、会議で研修報告を行い、職員一人ひとりの専門性及び資質向上に努めた。
3.地域とのつながりと共生
<ul style="list-style-type: none">・ 地域のひとり親等の様々なニーズに対して、施設の機能を活かした福祉サービスを提供できるよう関係機関との連携を図るとともに次年度の要保護児童対策地域協議会への参画に繋がった。・ 地域のひとり親等に対しての電話相談を実施しており、様々な悩みや相談に対応した。・ びは一とでは学習支援と並行しながら家庭内の課題に対しても関わりを深め、積極的な支援に努めた。
4.時代が必要とするサービスの創造
<ul style="list-style-type: none">・ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供し、母子の最善の利益に繋がるような関係の構築を図ってきた中で、新たな事業として産後ケア事業を実施することに繋がった。・ 児童相談所やこども若者部「みらい」、措置元等と連携して親子関係再構築を図った。
5.事業の継続性及び運営の透明性
<ul style="list-style-type: none">・ 母子生活支援施設の機能や支援内容を記載した広報誌『ルフレ通信』を年4回刊行し、関係機関に提供した。また、他施設と協働した魁プロジェクトではコロナ禍の中で関係機関への訪問も難しくなり広報誌『魁 PRESS』を発刊し周知のための広報活動を進めた。・ 母子生活支援施設の機能を紹介した動画の活用や施設情報を継続的に Instagram へ掲載するなど積極的な周知に努めた。・ 各種委員会の活動を通して、施設的环境整備や職員に対してヒヤリハットの周知等を積極的に行った。

令和3年度 特別養護老人ホーム成法苑事業報告

1.専門性が高いサービスの提供
<ul style="list-style-type: none">・利用者に応じた個別の経口摂取支援を行い、誤嚥性肺炎防止に努めた。・eケアラボ研修においては、オンラインによる研修は随時行うことができた。・実務者研修1名、認知症介護実践者リーダー研修1名受講し専門的ケアを実践した。・介護職員による夜間中の緊急対応の研修を行った。
2.人材育成と環境づくり
<ul style="list-style-type: none">・介護と看護の連携、協働を行い、看取り、褥瘡、緊急時対応など研修を行った。・オムツフィッター有資格職員2名により内部研修を月2回行い、排泄環境を見直した。・『パワーアシストスーツ』のデモを実施して新たな介護福祉機器の導入を検討した。・人事評価制度でフィードバック面接を活用した人材育成の取り組みを行った。・会話支援機器『コミュニケーション』や家族型ロボット『ラボット』など新たなICT機器を導入した。
3.地域とのつながりと共生
<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍において、外出やイベントなど地域とのつながりの準備も兼ねてSNSを通じて施設の姿を発信できた。
4.時代が必要とするサービスの創造
<ul style="list-style-type: none">・介護士の勤務体系や業務内容の見直しを行い業務の効率化、身体の負担軽減を図った。・感染症や災害発生に備え、BCP作成の検討を進めた。
5.事業の継続及び運営の透明性
<ul style="list-style-type: none">・入居に関しては、入院期間が長かったことが原因で、年間稼働率目標として入居97%に対して96.4%(-0.6ポイント)、短期入所はコロナ感染症の影響により95%に対して86.4%(-8.6ポイント)と目標は達成できなかった。・科学的介護を目指したデータベースLIFEに関しては既存のシステムでも対応可能となり、LIFE加算取得に向けての研修を受講し導入を目指す。

令和3年度 特別養護老人ホーム第二成法苑つむぎ事業報告

1.専門性が高いサービスの提供
<ul style="list-style-type: none">・ ユニットリーダー研修を全員で4名受講することが出来た。また、各ユニットの24時間シートも完成できた。今後は、24時間シートの PDCA サイクルを強化していく。・ 食事に関して、きざみ食ゼロ宣言の中、「デリソフトー」という機械を購入しゼロにすることが出来た。また、介護士は、口腔機能向上の為に「吹き戻し」「するめいか」等のツールを活用し、リハビリを実施。これらの内容を大阪老人福祉施設研究大会にて発表も行った。
2.人材育成と環境づくり
<ul style="list-style-type: none">・ 専門的技術の内部研修、オンライン研修を行い、より実践に近い内容で行うことにより職員一人一人の技術の向上に努めた。・ ICT 機器見守り支援システム「眠りスキャン」を全室導入できた。看取り期のデータを集約し、デスクカンファレンスに活かすことが出来た。・ 入居者家族と施設とが LINE で繋がることが出来た。それにより連絡や日頃の様子の写真や動画を贈ることが出来た。・ コロナ禍においても外部研修や e ケアラボを活用し、多種多様な研修を受講できた。
3.地域とのつながりと共生
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍において、外出や行事などの地域とのつながりがない一年であった。しかし、SNS を通じて施設の姿を発信できた。
4.時代が必要とするサービスの創造
<ul style="list-style-type: none">・ 2月より八尾市社会福祉協議会より中間的就労における対象者1名紹介を受けた。
5.事業の継続及び運営の透明性
<ul style="list-style-type: none">・ 年間稼働率目標として特別養護老人ホーム95%に対して96%で達成した。 また短入所生活介護98%に対して96%で未達成だった。短期入所に関しては、3月の大規模クラスターにて約2週間受け入れをストップしたのが原因である。・「LIFE」での加算取得では、科学的介護推進体制加算・栄養マネジメント強化加算・口腔衛生管理加算の 3加算を取得している。

令和3年度 養護老人ホーム心合寮事業報告

1.専門性が高いサービスの提供
<ul style="list-style-type: none">・ 行事、クラブ活動、機能訓練等の実施により生きがいづくりの支援を行った。・ 個々の残存能力を活用し、食堂やデイルームの消毒、食事前のトレーやコップのセッティング、配膳、下膳、ゴミ出し等に参加していただいた。・ ケース会議を定期的開催し、入所者の心身の状態や変化を情報共有し、支援内容の見直しや統一を図った。・ 個々のニーズや心身機能に応じた処遇計画を作成し、個別ケアや目標達成に努めた。・ 入所者向けの座談会を定期的開催し、集団生活上での困りごとや意見等を聞き取り、快適な生活が送れるよう問題解決に努めた。
2.人材育成と環境づくり
<ul style="list-style-type: none">・ 個別研修計画に沿い、オンライン研修(e ケアラボ)を実施した。(1人あたり年3回)・ 支援会議後に、認知症や精神疾患等、疾患別対応方法等の勉強会を開催した。
3.地域とのつながりと共生
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍により、こころまちカフェの開催、ボランティアの受け入れ施設行事等への地域住民の参加は休止した。・ 子ども園交流はDVD動画で実施した。・ 福祉避難所としての機能が維持できるよう、備蓄の点検や環境整備を行った。
4.時代が必要とするサービスの創造
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍により、施設農園の開放に参加していた地域住民の活動は休止した。・ 施設農園で栽培した野菜等を入所者と一緒に収穫し、食事の際に提供するなど楽しみや生きがいづくりにつなげることができた。・ 中間的就労を1名受け入れた。
5.施設の継続性及び運営の透明性
<ul style="list-style-type: none">・ 稼働率 99%・ 実習生を5名受け入れた。・ 養護分科会で作成されたパンフレット等を活用し、各関係機関や実習生へ施設機能の必要性を伝えることができた。・ 指定管理施設として、八尾市へ設備機器の劣化や点検状況等を定期的に報告し、不具合があった際にも速やかに対応することができた。